

令和6年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
50	川崎市立新城小学校	伊東 芳男

学校教育目標	今年度の重点目標
「心も強く 体も強い子」 ☆健康でたくましい子(体・態) ※態は態度 ☆よく考え進んで行動する子(知) ☆仲良く助け合う子(徳)	①健康でたくましい子の育成 ②よく考え進んで行動する子の育成 ③仲良く助け合う子の育成 ④開かれた学校づくり

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
健康でたくましい子の育成	①授業、行事、休み時間等を通して、学校生活や家庭生活の中に、外遊びや運動の定着を図っていく。	①運動委員会が休み時間に体を動かすことを目的とした集会を企画した。校庭を走り回って楽しく体を動かす子どもたちの姿が見られた。今年度より、校庭開放プロジェクトが始まった。放課後の校庭ではたくさん子どもたちが遊んでいた。	①体育の学習を充実させ、体を動かす楽しさを感じさせていく。児童の気持ちを外遊びに向かうように、授業内容とも連携しながら教師が意図的に声かけを行ったり、一緒に遊んだりする活動を継続していく。
	②保健教育と食育を通して、健康や安全についての関心・意欲・態度を育てる。	②保健委員会が集会で、早寝早起朝ごはんの大切さについて、子どもたちの言葉で伝えた。5年生の総合的な学習の時間では、SDGsの視点で探究活動を行い、環境のために給食を残さないようにしようとする意識が育っていた。栄養士と連携をとり、学活として食育を行った。	②学校便りや保健便りを通して健康や安全について保護者に発信し、家庭と連携していく。養護教諭や栄養士と連携し、学年に応じた保健教育や食育に関する授業実践を継続して行うようにする。
	③防災・防犯教育、交通安全指導等を通して、「自分の身は自分で守る」ための資質や能力を育てる。	③昨年度に引き続き、引き取り訓練、洪水に対する訓練を行った。中原警察の協力のもと防犯訓練も継続している。11月30日には、中原区総合防災訓練が新城小学校で開催され、600名以上の参加があった。4年生が総合防災訓練・なかはらSDGsまつりで、防災に関する課題について調べたことを伝えるコーナーに参加し、地域の方に発信すること	③6年間を見通した防災教育の授業実践を積み重ね、新城小防災教育計画を策定していく。
	④全教育活動を通して、子どもの精神的な自立に向けた指導と支援に取り組む。	④学校説明会や懇談会等を通して、子どもの精神的な自立に向けた指導と支援の重要性について保護者に発信してきた。保護者と連携して指導、支援ができた。	④体験活動や異学年交流等により自己肯定感を高める支援を進めると共に、全職員で子どもたちを見ていく体制を維持していく。
	⑤支援教育Coを核とした児童・保護者支援体制づくり。	⑤支援教育Coと学年・学級担任が情報共有を行い、丁寧に個に応じた支援体制を心がけ実践することができた。保護者の悩みには、巡回カウンセラーをつなげた。	④一人一人に合った支援を行っていけるようケース会議を行ったり、学校全体で情報共有したりする取り組みを今後も継続していく。
よく考え進んで行動する子の育成	①将来の社会的な自立に向け必要な能力や態度を育てる「新城小子ども未来教育」(キャリア在り方生き方教育)を全教科・領域を通して推進していく。推進し	①6年生にJAXAの教授やモデルロケット教室主催者によるキャリア教育の出前授業を行った。総合的な学習の時間には、興味のある職業や仕事内容、地域の未来について探究し、自分や地域の将来像について考えることができた。	①将来の社会的な自立に向け必要な能力や態度を育てる「新城小キャリア在り方生き方教育」全体構想を、教育活動全体を通して推進していく。
	②新学習指導要領が目指す資質・能力育成と「主体的・対話的で深い学び」の視点をたち授業改善に取り組む。ESD・SDGsの視点をもった教育を推進していく。	②ペアやグループでの話し合い、付箋紙を使って考えを出し合い分類する、GIGA端末を使用した発信など、子どもたちが自分の考えを多様な方法で伝え合う場面を授業の中に設定した。2月には、SDGsの視点をもった学習の成果を発表するSDGsランドを開催した。子どもたち同士で見合ったり、保護者に伝えたりする貴重な機会となった。	②「主体的・対話的で深い学び・個別最適な学び」を実現するために、研修の機会を確保し、担任の授業力を向上させていく。今後もESD・SDGsの視点をもった教育を推進していく。

		③6年間を通した学びを意識し指導計画・評価規準を見直す。	③校内研究では、教科を生活科・総合的な学習の時間に決め、SDGsの視点を生かした授業づくりに取り組んだ。学んだことを行動につなげられるような単元構想や授業改善を行った。	③これまで実践してきたSDGs教育のカリキュラムマネジメントを進めていく。
		④児童一人ひとりがよさを発揮し意欲的に活動できる教育活動や市民教育を意識した児童会・特別活動等を推進する。	④代表委員会では、6年生を中心に、市制100周年おめでとうまつりや運動会のスローガンについて各クラスから出た意見をまとめ、決定することができた。会議の様子を代表委員会TVとして全校に放映し、どのように話し合いが進められているのかを見る機会を作った。	④自分たちの学校生活をよりよいものにするために、考えや意見を積極的に出し合い話し合うことで実現できる、ということを体験を通して学ばせていく。
	仲良く助け合う子の育成	①「川崎市子どもの権利」に関する条例をふまえた人権尊重教育のさらなる充実を図りながら、優しい心配りや声掛け言葉遣いができる温かな人間関係を築いて	①学校アンケートなどで子どもたちの気持ちをつかみ、安心できる学級づくりを目指した。地域交通安全員さんやあいさつ運動の民生委員さんに、元気にあいさつしながら登校する姿が見られた。たてわり活動では、異学年同士のかかわりの中で、仲良く遊んだり、優しく声をかけ合ったりする様子が見られた。	①安心して過ごすことができる学校づくりのため、一人一人を大切にしたい指導や支援のできる教職員集団を目指していく。
		②特別の教科「道徳」の目指す「考え、議論する」道徳教育への転換を図り、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。	②自分の考えとの共通点や違いに気付き、さらに自分の考えを深めることができるような話し合いを大切にしながら道徳の授業を行った。	②講師からのアドバイスや他校の授業実践などを生かし、授業改善をしていく。
		③生き方を考え学ぶ読書活動の充実	③学校司書と連携し、子どもたちが進んで本を手にとることができるような環境づくりに努めた。図書ボランティアによる朝や中休みの読み聞かせを楽しむ姿が見られた。学校アンケートでは、「本を読むのが好き」の回答が昨年度より増えた。	③自ら読書に取り組む環境づくりを家庭と学校の両方で進めていく。
		④共生＊共育プログラムを通して、居場所としての学級集団づくりを目指す。困り感のある子どもの支援体制づくり。	④時期や集団の実態に合わせた共生＊共育プログラムのエクササイズを行い、居心地の良い学級集団づくりに努めた。支援教育Coと担任が連携し、個別の支援を行った。	④共生＊共育プログラムのエクササイズを適切に行い、温かい学級づくりを目指す。支援教育Coを中心に、支援体制をつくっていく。
		⑤国際理解と外国語活動	⑤3年生の総合的な学習の時間では、世界の遊びを体験する中で課題をもち、様々な国の文化や価値観について探究した。多目的室をイングリッシュルームに模様替えしたことで、明るい雰囲気の中で外国語を学習することができた。	⑤体験的な活動を取り入れながら、国際理解の学習を進める。英語専科やALTと担任が連携し、楽しい外国語活動の授業を行っていく。
	開かれた学校づくり	①「新城」というまちの持つよさを最大限に生かした教育活動を創造する。	①2年生の生活科のまち探検では、保護者の支援を得ながら、グループごとに行ってみたい新城のまちに出かけ、たくさんのことを発見することができた。5年生の総合的な学習の時間では、環境に配慮している商店街のお店にインタビューし、取り組みについて知ることができた。各学年でまちについて考える学びに取り組むためのカリキュラムマネジ	①新城のまちを貴重な学習材ととらえ、最大限に活用していく。新城のまちについて6年間を通して考えていくためのカリキュラムマネジメントをさらに進める。
		②地域や保護者、企業等の支援を積極的に活用し、生き方を考える体験・活動、学校行事の充実を図る	②市制100周年おめでとうまつりでは、地域で活動されている囃子曲持ちの演技を披露していただいた。新城小出身のお笑い芸人上々軍団を招き、キャリア教育としてこれからの生き方や在り方のヒントとなる話をしていただいた。	②引き続き、地域協力者の支援を活用し、生き方を考える学習の充実を図っていく。
		③園児・児童・生徒の各発達段階を踏まえスムーズに小学校の学びに繋げていくためのスタートカリキュラムをふまえながら地域の園や学校との交流を行い、豊かな人間性の育成を図る。	③1年生の生活科「ようこそ！しんじょうしょうがっこうへ」では、近隣の12の園から150名の園児を招いて交流会を行った。また、5歳児と5年生と一緒に稲刈りをするなど複数回活動する55交流も複数回行われた。新城っ子フェスタでは、西中原中と新城高校の生徒がワークショップを開いて参加した。	③引き続き、地域の園、学校との交流を続けていく。

8	④地域や社会の力を生かす教育活動に取り組み、学びを通して人の思いや生き方を知ることで自分の在り方や生き方を考え、行動する土台をつくる。	④田んぼでの米作り、エダマメやブロッコリーの栽培の学習では、地域協力者を講師として迎え、種まきや稲刈りなどの体験活動を行った。教材園は、地域の方とのつながりを感じる場、感謝の気持ちを育てる場になっている。	④引き続き、地域協力者の協力を得ながら、豊かな体験活動を計画していく。
---	---	--	-------------------------------------

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域が好きな子が多いところがよい。</li> <li>・「つながり ひろがり」を大切にしていることがわかった。田植えの経験などでは、食べ物への感謝の気持ちをもってほしいと思う。</li> <li>・学校評価アンケートは、設問の文言によって保護者の回答に違いが出るのではないか。</li> <li>・学校評価アンケートの結果が、子どもの結果と保護者の結果が並べてあって分かりやすかった。読書を通して、紙の書籍のよさ、SNS情報の脆弱さを教えてほしい。これからは、情報検索の力が必要になってくると感じている。</li> <li>・学校評価アンケートで、学校が楽しいと答えている子が多く素晴らしい。あいさつやお礼をきちんとする子の姿が見られた。</li> </ul>	<p>今年度は、コロナ禍が明けて2年目となり、学校の日常がさらに戻ってきた。給食をグループで向かい合って食べたり、体育館に全員が集まって朝会を行ったりと、様々な場面でかかわり合いの機会が増えた。授業中主体的に学習に取り組む子、係活動や実行委員、委員会活動に進んで取り組む子の姿が多く見られた。</p> <p>学校評価に関しては、学校教育目標に照らし合わせながら項目を検討し、保護者と児童にアンケートをとった。どの設問も8～9割は肯定的な回答が得られたが、教育活動について保護者への周知が不十分であることがわかった。ただ、学校教育推進会議で、オンライン配信化によりいつでも見られると思いきや読みたくないこともあることが話題となった。今後は、子どもたちの様子や学校の取り組みについてのオンライン配信化の在り方も含め検討し、保護者にわかりやすく伝え、家庭と学校が連携して取り組んでいくことができるようにしていきたいと考えている。</p> <p>今年度の校内研究では、生活科・総合的な学習の時間に教科を決め、SDGsの視点を生かした学習を展開してきた。新城のまちや人と直接何度かかかわることで、そのよさに気付いたり、取り組みについて知ったりすることができた。今後は、SDGs教育のこれまでの実践をもとに、カリキュラムマネジメントを進めていきたい。</p> <p>学校教育目標の実現のために、今後も、全職員が心一つにして実践していきたいと考えている。来年度から学校運営協議会がスタートする。地域とともにある学校づくりを推進するため、地域の方や保護者の方の声や力を生かしていける組織づくりに努めていきたい。</p>